

Investment Management Technology

Putnam Brings Its Use of Barra's TotalRisk System to New Levels

Putnam Investments (Boston) のリスク管理部門ヘッド兼マネージングディレクターの Erwin Martens 氏によると、Putnam は年末までに BARRA TotalRisk System の利用をさらに拡大していく予定です。当初 24 人からスタートしたこのシステムはこれまで既に 200 人規模にまで拡大されており、企業の構造変化をもたらしました。しかし、まだ統合されていないデータが残っており、現在さらなる統合が検討されています。

TotalRisk はシニアマネージャーからポートフォリオマネージャーまでの広範囲のユーザ向けにデータベースや分析機能が設計されています。現在、Putnam の株式・デリバティブ・FX データのほとんどはこのシステム上で管理されています。

さらに今後、債券データもこのシステムに統合することを計画しています。その結果全てのデータが統合され TotalRisk 本来の目的が達成され Putnam における全ての投資プロセスシステムに変化をもたらします。エンタープライズ型システムは、シニアマネージャーが Putnam の巨大な運用資産全体のリスクを管理することを可能とします。そしてまた、共通のシステム上で誰もが標準化されたレポートを利用し、標準化されたリスクを把握できます。

Putnam の投資運用プロセスは劇的に変化しました。マネージャーが毎朝最大ベットのマージナルコントリビューションが何であるか、またそれが如何に予想に対応するかを調べることによって運用資産の状況を把握することができる、と Martens 氏は説明します。マネージャーは、Sell, Buy, Hold のレーティングを見るために最新のリサーチ情報を参照することができます。そしてそのベットが予想に矛盾しないものであるかどうかや、負のベットの場合はそのアセットに投資しないという判断に対応しているのかというユーザの判断と共に、リサーチ情報と比較されてリスクが算出されます。Martens 氏は TotalRisk は全てのポートフォリオを一貫して分析することのできる唯一の最強のシステムであると述べています。

2 年前の時点では同様のリスク管理を行うことは非常に困難であったと Martens 氏は続けて述べています。同様のレベルのリスク管理を行うためにはより多くのスタッフやより多くの時間も要していたはずですが、また、そのプロセスはあまり正確ではなく手作業でデータを処理し、多くのミーティングやレビューが必要でした。現在それらは毎日自動的に処理されていると Martens 氏は語っています。

Putnam ではこのシステムで毎日処理され、より迅速な意思決定に必要な情報が提供されます。翌朝供給される大引け後のレポートを待つ代わりに市場の変化にその日の内に対応できます。

さらに TotalRisk を用いることにより、その場その場の分析だけでなく、今までにないより深い分析が可能です。リスク分解は同時にセクター別や、業種別、国別、通貨別に分析できます。もはや、各担当者が別の担当者のために時間をかけてレポートを作成し提供する必要はなくなりました。

最大の変化は詳細なレベルのリスク管理まで可能になったことです。例えばトラッキングエラーについては、今では誰もがトラッキングエラーを把握でき、その内容を理解できます。全てのポートフォリオに対してすばやく詳細なレベルでのトラッキングエラーを把握できます。

現在、Putnam のような様々な運用スタイルを扱う複雑な組織においても、同一のスケール上で互いに比較したり戦略会議をすることが可能となりました。

Putnam において TotalRisk は将来さらに拡大していく予定です。Martens 氏は既にポートフォリオ構築時の what-if 分析ツールとしてこのリスク分析プラットフォームの利用や可能性に注目しています。投資運用の専門家は、特定の銘柄を 5% 増やしたり、特定の国のウエイトを変化させるなどさまざまな要素を変化させることで、現状のポートフォリオに対し異なるシナリオでのリスク状況の分析が可能です。1998 年秋などさまざまなマーケットの変化に対してのシミュレーションも可能で、そのような状況下で如何なる影響が及ぶかを分析できます。

これらの様々な実践は以下のような質問に答えることからスタートしました。「我々はより良い投資行動をとる事ができたのか?」「その判断は間違っていなかったのか?」「そのような状況下で如何なる投資行動をとるべきだったのか?」Martens 氏はこの統制されたプラットフォームがなければこれらの答えを得ることは困難であったと述べています。

今後 Putnam は何処に向かうのか? このシステムの利用をさらに拡大するとともにさらに洗練された投資運用を目指し、次の段階では投資運用プロセスにおいてさらに TotalRisk を効率的に利用し同社のミドルウェアの機能を発展させる予定です。end-of-the-day view から endless-day view に向かって...